

検体検査部門における臨地実習の取り組み

◎佐谷 純一¹⁾、瀧野 亮太¹⁾、鋤崎 愛稀¹⁾、福山 修治¹⁾、永野 祥子¹⁾、溝口 義浩¹⁾、宇野 大輔¹⁾、緒方 昌倫²⁾
公立学校共済組合 九州中央病院¹⁾、学校法人 純真学園大学²⁾

【はじめに】

臨地実習において、当院検体検査部門では実習生が日常業務に積極的に参加するカリキュラムを用意しており、午前は業務を施行し、午後は各分野での研修を行っている。また当院は県外を含む7校から年間約15名の実習生を受け入れていることから、指導に様々な工夫を行っているので、今回その取り組みを報告する。

【実習内容】

検体の到着確認、遠心分離、検体架設、試薬・消耗品の補充、各分析装置説明、機器メンテナンス、内部精度管理実施、検査結果確認、血液像鏡検、尿沈渣像鏡検、髄液・穿刺液検査の説明、輸血関連検査実施、入院患者分採血管準備、パニック値運用の説明、課題としてパワーポイントの作成。

【現場の取り組み】

多くの実習生を入れ替わりで受け入れるので、学生指導内容のマニュアルを作成。また、検体到着の受付漏れなどの対策として検査システムの改良を実施。技師が実習

生への指導が困難な隙間時間用に教育スライドを用意。実習生に考える力とまとめる力を身につけさせるために課題のスライド作成～発表を実施。実習終了後にアンケートを実施し次年度の参考になっている。

【考察・まとめ】

多くの実習生を受け入れているが、様々な工夫を行うことで現場技師の負担増にはなっていない。また実習生を指導することで現場技師のレベルアップに繋がっている。アンケートの結果でも実習生の満足度は高くなっており、当院への就職を希望する学生が多いことから実習の効果が現れていると考える。今後も現場の技師と実習生のモチベーションが上がる臨地実習の環境を整備していきたいと考えている。

連絡先：092-541-4936（内線：3266）